



昼夜を問わない過激トークでおなじみの岩井志麻子が満を持して贈る、生トークイベント。「5時に夢中！」の木曜日が楽しみでたまらない皆さんにとって、さらに楽しい午後の秘密のプログラムがスタートします。もちろん韓国映画好きも絶対に見逃せない自主規制なしの志麻子節全開トークの始まりです！

韓流アフタヌーン

岩井志麻子の秘密の昼下がり

志麻子流韓国名作映画劇場へようこそ！

韓国ツウとして知られる作家の岩井志麻子がセレクトしたおすめの韓国映画を題材に、あんなことこんなことをぶっちゃけて語り合うトークイベント、「韓流アフタヌーン」岩井志麻子の秘密の昼下がり」がスタートします。志麻子+韓国映画という生コラボレーションが遂に実現！「5時に夢中！」でおなじみの志麻子節と、作家ならではの意味深長な洞察に満ちた独白目線による映画観察眼で話題の韓国映画をおさらいしながら解説します。会場の皆様を新たな発見と快楽と爆笑に誘うこと必至の「志麻子流韓国名作映画劇場」へ皆様お誘い合わせのうえご来場ください！



韓流アフタヌーン～岩井志麻子の秘密の昼下がり



志麻子さんからのメッセージ

思えば韓国には、もう二十五年以上関わっています。ついに韓国男と結婚してしまっただけです。夫以外にも、体で日韓友好した相手は数え切れません。韓国男を好きなのはなぜかとよく問われるのですが、自分でも明確に答えが出せません。好きだから好きとしか言いようがなく、それはもはや性癖でしょう。いや、性癖というのが一番正しくて本人も納得できる答えですね。そして韓国映画もけっこう見ている方だと思うのですが、同じくなぜ韓国映画が好きかと問われれば、これまた「おもしろいから」といった幼稚園児みみたいな答え方しかできないのです。これまた、性癖だからでしょう。有閑な奥様達とこのあたりの、うれしはずかし話もしたいと楽しみにしています。

岩井志麻子プロフィール

1964年、岡山県生まれ。『ぼっけえ、きょうてえ』（角川書店刊）で第6回 日本ホラー小説大賞、2000年には同作品で第13回 山本周五郎賞。第2回 婦人公論文芸賞を受賞した『チャイ・コイ』（中央公論新社刊）は2013年12月に川島なお美主演で映画公開。『5時に夢中!』（東京MXテレビほか）木曜レギュラー出演。また映画『地獄でなぜ悪い』をはじめ近年は強烈なキャラクターを活かした映像出演など幅広いジャンルで活動中。近著に『5分で読める!怖いのはなし』（宝島社）『現代百物語 彼岸』（角川ホラー文庫）ほか。



5.8 (fri) 殺人の追憶

韓国で実際に起こった未解決の連続殺人事件を題材に、捜査に携わった男たちの心理を緊張感あふれる映像と緻密な脚本で描いたクライムサスペンス。80年代の韓国社会の矛盾と弊害を余すところなく描き出し、ポン・ジュノ監督の名を知らしめた大ヒット作。

監督・脚本:ポン・ジュノ

出演:ソン・ガンホ、キム・サンギョン、パク・ヘイル
キム・レハ ほか

2003年/130分/PG12/ビターズエンド

志麻子のひとこと

かつてこの映画に対する思い入れは、私もこの映画の元になった事件取材本にした、というものでした。今は少し違う。私と特別に親しい韓国男の昔の恋人が今、この映画でかなり重要な役の俳優の妻になっているのだ。



6.5 (fri) 情愛中毒

1969年の韓国、野心家の妻をもつ軍人が愛したのは部下の妻だった。出会ってはいけない二人の激烈な情愛の行きつく果ては? 人気俳優ソン・スンホンが演じた、エリート軍人の虚無と幸福、そして役者人生初の大胆演技が話題を呼んだ。ブルジョア階級の軍人たちの生活を時代性とともに完璧に再現した美学的完成度も見逃せない。

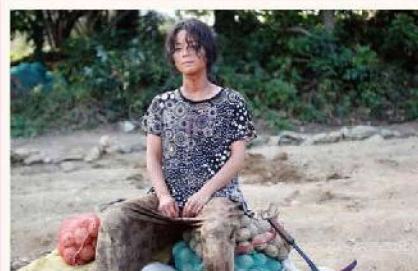
監督・脚本:キム・デウ

出演:ソン・スンホン、イム・ジョン、チョ・ヨジョン
オン・ジュワン ほか

2014年/132分/R18+/クロックワークス

志麻子のひとこと

美男美女のドロドロ愛欲。ドラマチックな悲恋。すべて劇的すぎる起承転結。韓流好き女性のハートを、ど真ん中から鷲掴みにするだろう。そして、どんな女が一番男のハートを鷲掴みにするかも教えてもらえる。



7.3 (fri) ビー・デビル

ソウルでの日常に嫌気がさし、故郷の絶海の孤島に帰京したヘウォン。島では幼なじみのボンナムが仕えない打ちを受けていた。ここから抜け出したいと懇願する彼女を突き放したヘウォン。ある日をボンナム襲ったとつもない悲劇から、美しい島が惨劇の舞台に変わる…カンヌ国際映画祭をはじめとして、世界を震撼させた恐るべき才能、チャン・チョルス監督の長編デビュー作。

監督:チャン・チョルス 脚本:チェ・カンヨン

出演:ソ・ヨンヒ、チ・ソンウォン ほか

2010年/115分/R18+/キングレコード

志麻子のひとこと

極端な描き方ではあるけれど、韓国という国の隠しておきたい負の部分、もしくはどうしようもなく真ん中にある現実を容赦なくさらけ出している。それでいて、やはり韓国の持つ純心さと詩情も偽りなく見せてくれる。

会場: **ユーロライブ** (渋谷駅下車。Bunkamura前交差点左折。ユーロススペース内)
HP: <http://eurolive.jp>

時間: いずれの日程も開場13:00/開演13:30(映画上映後トーク。終了予定時刻16:45)

当日料金: 一般2,300円/学生1,700円/高校生1,000円/会員2,000円

前売券: 一般:2,100円/会員1,800円(学生・高校生は当日券のみ)

会員はユーロススペースおよびシネマヴェーラ会員 当日券は開演1時間前より販売

[4月15日よりチケット発売開始] 全自由席(178席) 券面記載の整理番号順に入場。[取扱い] ユーロススペース(同ビル3階) ●窓口販売 12:00~20:00

●WEB販売:<http://eurolive.jp> ●電話予約(平日10:00~18:00): 0120-240-540(カンフェティチケットセンター)

